

TOPICS

ベンティガ生産ラインが
稼働開始

CONTENTS

1 TOPICS —
ベンティガ生産ラインが
稼働開始2 COMPETITORS —
メルセデス・ベンツ GLS3 COMPETITORS —
レンジローバー3 TOPICS —
ベンティガ E ラーニング
高い受講率4 NEW MODEL —
ベンティガ - エクステリア編5 NEWS —
2015 年に 18 の賞に輝いた
ベントレー 他6 BASIC KNOWLEDGE —
ベンティガ 4 つのオフロード用
ドライブモードを設定

クルー工場でベンティガの生産ラインが稼働を開始し、2015 年 11 月 27 日に最初のベンティガが誕生しました。ウォルフガング・デュルハイマー会長兼 CEO がこの日に向けてカウントダウンを開始してから約 1 年、この試金石となった日のためにベンティガのプロジェクトに携わった数多くの従業員が、第 1 号車が工場前の駐車スペースに移動するのを見守りました。

今回誕生したアンスラサイトのボディカラーで仕上げられた車は、ベントレー史上最大の投資プログラムの結晶であり、手作業で約 130 時間かけて製造されました。組み立ての工程においては、多額の資金を投じて新設したボディ製造ライン、ペイント作業ライン、組み立てラインを通りました。この投資により 1500 もの新しい仕事が創出されています。これでベンティガは 1 月からデリバリーを開始できるフル生産に移行しています。

デュルハイマー会長兼 CEO は、「ベンティガはラグジュアリー SUV という新しいセグメントにおいて、競合他社からベンチマークとして見られることになります。そして、この車は英国の工業技術が最高水準にあることを示し、私たちが英国の自動車産業界を強化するという意味だけでなく、私たちのホームであるクルーで仕事を創出し、投資することに意義があるのです」などとコメントしています。さらに、「このベンティガのデリバリーにまでこぎつけたことについて、全ての従業員が情熱とプロフェッショナリズムを持って仕事をしてくれたことに感謝します。そして、英国政府、親会社、このプロジェクトに携わってくれたビジネスパートナーの協力なしには成し遂げることはできませんでした」と、プロジェクトに関わった全ての人に感謝の気持ちを伝えています。

また、英国のデイビッド・キャメロン首相からも、「ベンティガがクルーで製造されたことを嬉しく思います」などのコメントが寄せられ、英国の自動車産業としても明るいニュースとして捉えられています。

キャメロン首相はまた、「ベントレーがこの驚くべき新型車の製造までたどり着いたことは、ベントレーとその従業員による尋常ではない努力があったからで、その集大成といえるでしょう」と、ベントレーの従

業員に対して惜しめない賛辞を寄せました。

製造部門担当役員の Michael Straughan は、ベンティガ第 1 号車が製造ラインの最終ステージを出て走りだす際に、約 4,000 人の従業員に次のように語りかけました。

「会社全体にとって非常に誇らしい瞬間です。ハンドメイドの英国車が新しいセクターを定義できたこの 4 年間で祝福したいと思います。ベンティガは、英国の優れた技術力に現代の製造技術と素材をブレンドすることで生まれた、まさしくベントレーの SUV です」



デュルハイマー会長兼 CEO がカウントダウンを開始した日から掲げられてきたカウントダウンボードは、第 1 号車の完成とともに役目を終えました。

INFORMATION

日本での価格は 2,695 万円

ベントレー モーターズ ジャパンはこのほど、ベンティガの日本での希望小売価格を発表しました。ベントレー初の SUV となるベンティガの希望小売価格は、2,695 万円（消費税込）。全国の正規販売店ですでに予約受注を受け付けており、国内への最初のデリバリーは 2016 年秋頃の予定です。

ベントレー モーターズ ジャパンのティム・マッキンレー代表は、「このベンティガは比類なきラグジュアリー性と、走行性能、オフロード性能と実用性が融合した真のベントレーです。この車が幅広い年代のお客様それぞれのライフスタイルに合った使われ方がされることを期待しております」などと話しています。

■ベンティガ主要諸元（本国参考値）

| | |
|--------------|------------------------|
| 全長 | 5,140 mm |
| 全幅（ミラー含む） | 2,224 mm |
| 全高 | 1,742 mm |
| ホイールベース | 2,995 mm |
| 総排気量 | 5,950cc |
| 最高出力 | 608 PS/5,000-6,000 rpm |
| 最大トルク | 900 Nm/1,350-4,500rpm |
| 最高速度 | 301 km/h |
| 0-100km/h 加速 | 4.1 秒 |

COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

名実ともに SUV の S クラス —メルセデス・ベンツ GLS の特長—

メルセデス・ベンツは、2015 年 11 月に 7 人乗りの最高級 SUV、GLS を発表しました。GLS は、実質的に同社の GL をフェイスリフトしたモデルです。2015 年からダイムラーが行っているメルセデス・ベンツの車種名変更に伴い、GL は新たに GLS と変更されました。車名に車格を表す「S」が付いたことにより、GLS では従来以上に装備充実と品質向上を実現。名実ともに SUV の S クラスとして位置付けられました。

エクステリア



Mercedes-AMG GLS 63 4MATIC

GL からの変更点は主にフロントマスクとリアまわりで、最新のデザイン言語で一新されています。フロントまわりは先に登場した GLE とほぼ共通のイメージで、従来モデルの M クラスと GL に比べると相対的に差異が少なくなりました。また、トップモデルの Mercedes-AMG GLS 63 4MATIC は非常にアグレッシブなデザインに一新されています。

インテリア



インテリアは全体的に品質がアップしています。また、ダッシュボード中央のエアコン送風口からコントロールパネルまわりの形状が一新され、従来のスクエアなアルミ調パネルからラウンドした形状のピアノブラック調パネルに変更されました。ステアリングも従来の 4 本スポークから 3 本スポークタイプとなっています。

最高級 SUV の GL がフェイスリフトし、新たに GLS として登場

より豪華になったインテリアと進化したテレマティックス

9 速 AT の採用とさらなるパワーアップを実現した AMG モデル



モデルラインアップ



本国で発表されたモデルは、GLS 350 d 4MATIC、GLS 400 4MATIC、GLS 500 4MATIC、そして Mercedes-AMG GLS 63 4MATIC の 4 車種。日本に導入される車種は現時点では未定ですが、現在のラインアップが GL 350 ブルーテック 4MATIC、GL 550 4MATIC、GL 63 AMG の 3 車種のため、現行通りとなる可能性が高いといえるでしょう。新型の GLS ではガソリンエンジンの最高出力が向上し、GLS 500 4MATIC では従来の 435ps から 455ps に、Mercedes-AMG GLS 63 4MATIC では 557ps から 585ps に、それぞれパワーアップしています。

機能装備



新型の GLS ではテレマティックス装備の「COMAND システム」が改良されています。ディスプレイは従来の 7 インチから 8 インチに拡大され、操作系は従来の COMAND コントローラーに加えてタッチパッドを新たに採用。手書き入力にも対応しています。走行系では、最大 6 種類の走行モードを選択できる DYNAMIC SELECT を採用。また、AMG モデルを除く全車種に 9 速 AT の「9G-TRONIC」を採用しています。

COLUMN 車種名を一新したメルセデスの SUV ラインアップ

ダイムラーでは、2015 年からクーペ、ロードスター、SUV ラインアップの一部の車種名を変更しています。そのうち SUV では車種名の先頭に「GL」が付き、その後に車格を表すアルファベットを付けるようになりました。メルセデスの SUV ラインアップは、今回の GLS で車種名の変更を完了。合計 4 種類のセグメントに分類されました。

GLA



NGCC（ニュー・ジェネレーション・コンパクト・カー）のプラットフォームによるコンパクト SUV。車格としては、GL の A クラスにあたります。駆動方式は、前輪駆動と 4WD の 4MATIC の 2 種類が用意されています。

GLC



現在の C クラスと同じプラットフォームを使ったミッドレンジの SUV モデルで、実質的には GLK の後継モデル。車格としては、GL の C クラス版にあたり、駆動方式は後輪駆動と 4MATIC の 2 種類が用意されます。日本でも間もなく発売される予定で、クーペモデルも市販化に向けて開発中です。

GLE



M クラスのフェイスリフトを期に車種名を「GLE」に変更。車格は、文字通り E クラスに相当するアッパーミッドレンジの SUV です。日本では 2015 年 10 月 28 日に発表・発売。GLE 350 d 4MATIC と Mercedes-AMG GLE 63 S 4MATIC の 2 車種が導入されています。本国ではクーペボディの GLE クーペもラインアップしています。

GLS



GL クラスのフェイスリフト版が「GLS」。SUV の S クラスを示す車名の通り、フラッグシップにふさわしい装備内容になりました。

■ 価格&導入時期

欧州では 2015 年 11 月から受注が開始され、2016 年 3 月から納車が開始される予定。日本への導入時期は未定ですが、現在の GL の在庫状況を踏まえて判断されると思われます。

| | |
|----------------------------|--------------------------|
| GLS 350 d 4MATIC | 62,850 ユーロ (約 817 万円) |
| GLS 400 4MATIC | 64,425 ユーロ (約 837 万円) |
| GLS 500 4MATIC | 81,600 ユーロ (約 1,060 万円) |
| Mercedes-AMG GLS 63 4MATIC | 113,500 ユーロ (約 1,475 万円) |

* 1 ユーロ 130 円として計算

COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

レンジローバーに追加された最上級モデル —レンジローバー SV Autobiography の特長—

| | | |
|---|---|------------------------------------|
| ジャガー・ランドローバーの SVO (スペシャル・ビークル・オペレーション) が 設計・開発を担当 | 内外装に専用装備を施した ロングホイールベース + 4 シーターモデル | 550ps の V8 スーパーチャージド エンジンを搭載 |
|---|---|------------------------------------|



レンジローバー SV Autobiography は、ジャガー・ランドローバー・ジャパンが 2016 年モデルとして 2015 年 10 月 1 日に発売したレンジローバーの最上級モデルです。ジャガー・ランドローバーにおいてビスポークおよび特別なパフォーマンスモデルを製作する SVO (スペシャル・ビークル・オペレーション) が設計・開発を手がけたこのモデルは、これまでの最上級モデルだった AUTOBIOGRAPHY の上を行く特別なモデル。それだけに特徴的な装備をいくつも備えています。

エクステリア

日本仕様の SV Autobiography は、標準モデルよりホイールベースを 200mm 延長したロングホイールベースボディのみが設定されています。フロントグリルは専用デザインとなり、22 インチの 7 スポーク・アロイホイールもハイグロスポリッシュタイプの専用品となります。



インテリア



シートの素材は、ソフトでしなやかなパーフォレーテッド・セミアニリンレザーが奢られています。フロントシートの電動調整機能は、AUTOBIOGRAPHY の 18 ウェイから 22 ウェイに拡充。リアは 2 人掛けのエグゼクティブシートが標準装備され、センターコンソールにはボトルチャー、電動展開 / 収納式テーブルなどを備えています。

パフォーマンス

エンジンは、SVO が設計・開発を担当したレンジローバー・スポーツ SVR と同一の 5.0L V8 スーパーチャージド・エンジンを搭載。最高出力は AUTOBIOGRAPHY から 40ps 増しの 550ps となり、最大トルクも 55Nm 増しの 680Nm まで高められています。

価格

価格は AUTOBIOGRAPHY の 1,900 万円に対して、実に 958 万円高の 2,858 万円。ベンティガの 2,695 万円を 163 万円上回る価格設定で、名実ともにベンティガの競合車といえる存在です。

TOPICS [トピックス]

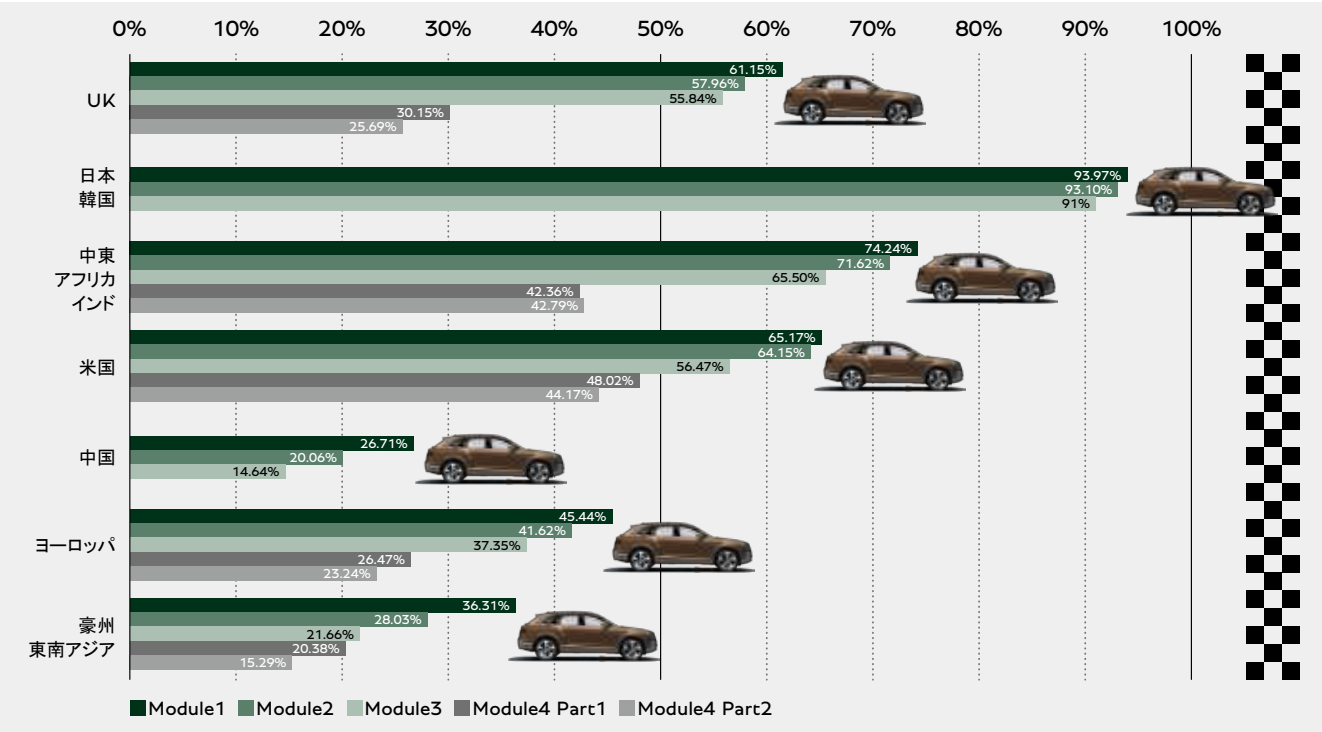
ベンティガの E ラーニング受講率は日本・韓国地区が地域別でトップに

2015 年 10 月に始まったベンティガの E ラーニング受講率は、販売店の皆様のご協力により、日本・韓国地区が地域別でトップとなりました。日本のセールス・アフターセールスのスタッフはほぼ全員が受講したことになります。なかでも、札幌、東京、名古屋、大阪は受講率が 100% となりました。モジュール別では、モジュール 1

とモジュール 2 がいずれも 99.1%、モジュール 3 が 97.3%、モジュール 4 Part1 が 97.3%、同 Part2 が 94.59% でした。地域別では、日本・韓国が全モジュール (グラフはモジュール 3 まで) で 90% を超えました。次点が中東・アフリカ・インドでモジュール 1 の 74.24% が最多であることから、日本・韓国の受講率の高さが際立っている

ことがわかります。以下、米国、英国、欧州、豪州・東南アジアと続きますが、受講率が 70% を超える地域はありません。販売店の皆様のベンティガに対する注目度の高さ、商品知識をどん欲に吸収しようとする向上心に敬意を払うとともに、ベントレー モーターズ ジャパンとしてもベンティガの販売に積極的に取り組んでいきます。

地域別ベンティガ E ラーニング受講率



INFORMATION

全世界の販売台数は
3 年連続で 10,000 台超え

英国ベントレー モーターズによると、2015 年の全世界での販売台数は 10,100 台でした。英国、欧州、中東、韓国、日本での販売が増加し、3 年連続で 10,000 台超えという結果になりました。シェア 28% でトップを守った北米市場は、2014 年の 3,186 台から減少し 2,864 台。2014 年に 2,560 台を販売した中国では、株価の乱高下など中国経済を取り巻く環境が厳しかったことから 1,615 台に後退しました。大きな市場での販売台数は堅調ながらも前年実績を下回るなか、英国や欧州、中東、日本、韓国といった市場での伸びが目立ちました。

ウォルフガング・デュルハイマー会長兼 CEO は、「主要市場での販売が堅実に推移したことに加え、製品と人と販売ネットワークへの投資を続けたことにより、2015 年もベントレー モーターズは好調な販売を維持しました」などと語っています。

NEW MODEL [ニューモデル]

ベンテイガの特長 — エクステリア —

昨年 11 月下旬に、クルー工場で生産ラインが本格的に稼働を開始したベンテイガ。日本での希望小売価格も 2,695 万円と決まり、今秋にもデリバリーが開始される予定です。満を持して登場するラグジュアリー SUV について、少しでも理解を深めるために E ラーニングのおさらいをしておきましょう。

3 アダプティブ LED・ヘッドライト

ベンテイガのフロントフェイスに欠かせない要素で、ベントレーでは初めてメインビーム、ロービーム、インジケーターランプ、サイドランプ、デイルイトラングランプなど、フロントヘッドライトの全ての機能に LED の技術を採用しました。

4 ルーフレール

ポリッシュドアルミニウムで長さ 1.8m、ルーフラインからの高さは 1.5cm で、耐荷重は最大 100kg です。ベントレー純正のクロスバーを取り付けた状態でもサンルーフの全機能を使用することが可能です。

5 遮音性に優れたガラス

世界で最も静かな SUV を実現するため、ベンテイガのフロントガラスと全てのドアのガラスにはアコースティックガラスが採用されています。また、フロントガラスは目に見えない金属の層により暖められるため、ガラスの凍結がすばやく解消されます。



FRONT DESIGN



11 エンジンパワーを感じるテールパイプ

リアバンパー下部にある 2 つの大きな楕円形テールパイプは、アルファベットの「B」を模したテールランプのデザインと調和しており、ボンネット内のエンジンパワーを感じさせます。

12 標準 17 色、オプション 90 色と豊富なボディカラー

ボディカラーは標準の 17 色に加え、オプションとして 90 色を用意。色の組み合わせを無限にカスタマイズできます。標準ペイントの場合、ボディの下半分とミラーの下半分は「テクニカルグレー」に仕上げられています。有償オプションで下半分をボディカラーにすることも可能。オプションカラーの場合は、オプション料金に下半分のペイント費用も含まれています。

1 エクステリア全体にアルミニウムを採用

ベンテイガは、エクステリア全体にアルミニウム合金を採用した初めてのベントレーです。強度と剛性を最大限に高めながら、重量を大幅に削減しました。アルミ 60%・高強度鋼 40% という「構造材のインテリジェントな組み合わせ」で、従来の車体構造と比較して車両の総重量は 200kg 以上削減されています。

2 大型マトリックスグリル&バンパーグリル

ベントレーのアイデンティティも言えるブライトクロムの大型マトリックスグリルが、堂々とした存在感を放ち、その両脇に浮かび上がるように特徴的なヘッドライトを並べました。バンパーグリルはクローム仕上げとブラック仕上げの 2 種類を用意。バンパーグリルのすぐ下にあるスクリーニングパネルは、SUV の耐久性を提供します。

6 スリムなサイドの「パワーライン」

ボディサイドからリアホイールアーチ上を通り、ベントレーのアイコンックなスタイリングを強調しているのが、半径 3mm のスリムな「パワーライン」。航空や宇宙開発技術で使われているスーパーフォーミング製法(2015 年 4 月 15 日号参照) によって、フロントフェンダーの精緻な形状が比類なき高級感を演出しています。

7 「B」型ウィングベント

フロントホイールアーチ後方に「B」を象ったウィングベント。ドアに向かって通る特徴的なラインが、洗練された躍動感を生み出しています。

8 精密なシャットライン

ドアのシャットラインはクラス随一の精密さを誇ります。一目で最上級の高級感を強く印象づけます。

9 デイテールにまでこだわったトランクルーム

トランクの縁を保護するレザー製のトランクカバーやステンレス製のトレッドプレートなど、デイテールまでラグジュアリーにこだわりました。サスペンションの高さとリアシートの位置は自動調節が可能なほか、両手に荷物を持った状態でもリアバンパーの下で足を振るだけでテールゲートを開閉できます。こういった高い利便性もベンテイガの大きな特長です。

10 ボディ随所にクロームパーツ

サイドウィンドウ、ドア下部、グリル、ヘッドランプ、リアコンビネーションランプ、リアバンパー周りに施されたクロームパーツが、ラグジュアリー SUV の力強さを際立たせつつ、ベントレーのエlegantなデザインに溶け込んでいます。

標準およびオプションのホイール

| 20 インチ・10 スポーク ペイント仕上げ | 20 インチ・10 スポーク ポリッシュ仕上げ | 21 インチ・5 ツインスポーク ペイント仕上げ | 21 インチ・5 ツインスポーク ポリッシュ仕上げ | 21 インチ・5 ツインスポーク ブラックペイント仕上げ& ダイヤモンドカット加工 | 22 インチ・5 スポーク (ディレクショナル) ペイント仕上げ | 22 インチ・5 スポーク (ディレクショナル) ポリッシュ仕上げ |
|---|----------------------------|---|------------------------------|---|---|---|
| オールシーズンタイヤのみ装着可。オフロードにお勧め。 無償 OP | 無償 OP | 標準装備のホイール。オールシーズンタイヤを装着済。夏用タイヤも無償 OP の対象。冬用タイヤも装着可。 | 有償 OP | 有償 OP | ベントレーで使用可能な最大のホイール。有償 OP で夏用タイヤのみ装着可。高力アルミ鋳造による機械加工仕上げと手仕上げにより、車両両側のスポークが常に前を向いた形状になっている。 | 有償 OP |
| | | | | | | |

LATEST NEWS [最新情報]

2015 年の販売台数は 370 台

日本自動車輸入組合（JAIA）によると、2015 年のベントレーの国内での販売台数（新規登録台数）は、前年比 16.7%増の 370 台でした。販売店の皆様にご尽力いただき、過去最高を記録した 2014 年を上回り、新たに最高記録を更新することができました。

モデル別の台数の内訳は、ミュルザンヌが 27 台、フライングスパーは W12 が 46 台、同 V8 が 99 台と全モデルで最多となりました。コンチネンタル GT シリーズは、クーペの W12 モデルが 55 台、同 V8 モデルが 92 台、コンバーチブルの W12 モデルが 15 台、同 V8 モデルが 19 台でした。

今秋にはペンティガのデリバリーも開始される予定です。ベントレー モーターズ ジャパンとしてもさらなる販売増につながるよう鋭意努力してまいります。



コンチネンタルシリーズでは V8 モデルが前年の 73 台を大きく上回る 92 台を記録。

| ■ 2015 年モデル別販売台数 | |
|---|-----|
| コンチネンタル GT/GT Speed | 55 |
| コンチネンタル GT V8/V8 S | 92 |
| コンチネンタル GT コンバーチブル /GT コンバーチブル Speed | 15 |
| コンチネンタル GT V8 コンバーチブル / GT V8 S コンバーチブル | 19 |
| フライングスパー (W12) | 46 |
| フライングスパー (V8) | 99 |
| ミュルザンヌ | 27 |
| その他 | 17 |
| 計 | 370 |

※出典：日本自動車輸入組合「輸入車統計情報 2015 年 12 月度月報」



2015 年モデル別販売台数で全モデルで最多となったのはフライングスパー V8 でした。

ピレリワールドチャレンジに参戦決定

ベントレー・チーム・アブソリュートはこのほど、2016 年のピレリワールドチャレンジに参戦することを発表しました。歴史のあるラグナ・セカ・サーキットを含む 11 サーキットで競われる全 20 ラウンドのシリーズに、少なくとも 2 台のコンチネンタル GT3 が出場します。ドライバー交代のない 50 分間のレースに、米国の 21 歳の新鋭 Andrew Palmer と、2015 年 GT アジアでチームのシリーズタイトル獲得に大きく貢献した香港の Adderley Fong が臨むほか、現在 3 人目のドライバーとも交渉中です。

第 1 戦は、テキサス州オースティンのサーキット・オブ・ジ・アメリカズで 3 月 3 日に開催されます。



Andrew Palmer



Adderley Fong

2016 年「Bentley Collection」を近日中にお届けします

ベントレー モーターズ ジャパンでは現在、高品質のグッズなどで高い評価をいただいている Bentley Collection の 2016 年版を準備しています。2 月上旬から中旬にかけて、販売店の皆さまにお届けする予定です。

2016 年 の Bentley Collection は、全カテゴリーで商品ラインナップが充実したうえ、フレグランスなどもカタログに加われました。いずれもベントレーにふさわしい高品質の商品ばかりです。各販売店の売上アップにもつながりますので、積極的にお客様にお勧めしてください。



2015 年に 18 の賞に輝いたベントレー

世界各地で 18 の賞に輝いた 2015 年は、ベントレーにとって大きな成功を収めた年となりました。このうち最も多く受賞したのがフライングスパー。英国デイリー・テレグラフ紙の読者が選ぶ「ベストラグジュアリーカー」に選出されるなど、全部で 6 つの賞を受賞しました。ミュルザンヌ Speed も Robb Report から「ベスト・オブ・ベスト・ラグジュアリーセダン」を受賞。圧倒的なパフォーマンスと無限のカスタマイズの可能性を評価されました。

コンチネンタルシリーズからは、コンチネンタル GT Speed コンバーチブルが、Robb Report の「ベスト・オブ・ベスト・コンバーチブル」と Digital Trend の「ラグジュアリーカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞。GT3-R は中国メディアから「カー・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。

コンセプトカーも高い評価を得ました。ベントレーの未来のヒントとなる EXP 10 Speed 6 が、世界的に権威あるデザインコンペの 1 つとして挙げられるジャーマンデザインアワード（トランスポーター部門）で金賞を受賞。ジャッジから「ベントレーのアイコンを残しつつ、新しいマテリアルを使いこなし、ダイナミズムを表現している」と賞賛されました。

車両以外でも、メーカーとして評価された「ヨーロッパ・インダストリアル・エクセレンス・チャンピオン」、イスタンブールのセントレジスホテルのベントレースイートが受賞した「ベストスイート」など、ベントレーは数多くの栄冠に輝いています。



プロダクションカーだけでなくコンセプトカー「EXP 10 Speed 6」もドイツの権威あるデザインアワードを受賞しました。

BASIC KNOWLEDGE [基礎知識]

Bentayga の新技術 Vol.3

Responsive Off-road Setting

レスポンス・オフロード・セッティング

ベントイガには、ドライバーの好みや路面状況、天候などに応じてエンジンの出力特性やシフトプログラム、車高、サスペンションのダンパー特性、ロールコントロール、スタビリティコントロール、トラクションコントロールの7項目を、総合的にコントロールする『ドライブ ダイナミクス モード』が標準装備されています。最高のパフォーマンスを提供する「SPORT」、快適性と燃費性能を優先する「COMFORT」、ベントレーのシャシー担当エンジニアがスポーツ性と快適性のバランスを考慮した「Bentley」、ドライバーの好みに合わせて各制御項目を個別に設定できる「CUSTOM」の4種類が選択できますが、オプションのオールテレイン仕様を装備することで、『レスポンス オフロード セッティング』として、さらに4つのモードが追加されます。

各モードの詳細は以下に解説しますが、基本的な設定として、Snow and Wet Grass（氷雪路や濡れた草道）とDirt and Gravel（未舗装路や砂利道）の2つは、オンロードとオフロードの両方で走行安定性を高めるよう意図されたモード。Mud and Trail（泥濘路や荒れた道）とSand（砂地）の2つは、本格的なオフロード走行を想定したモードになっています。

ベントイガのSUVとしての性能をフルに引き出すには、この『レスポンス オフロード セッティング』は必須の機能です。お客様にぜひオールテレイン仕様の装備をお勧めください。



ドライブ ダイナミクス モードのセレクトダイヤルに追加されたレスポンス オフロード セッティングの4つのモードは、すべて絵文字で表示されている。

4つのオフロード用
ドライブモードを
追加

Snow and Wet Grass

氷雪路や濡れた草道

氷雪路や濡れた草原、濡れ落ち葉で覆われた路面など、極端に滑りやすいコンディション下で、最大限のコントロール性とトラクションが得られるように設定されたドライビングモードです。エンジンの最高出力を抑え、トルクカーブを滑らかにすることでコントロール性を優先。スタビリティコントロールは、タイヤの空転をできる限り抑える設定となり、サスペンションのダンパー特性は、最高レベルの快適性を提供する「COMFORT」に、車高はオフロードレベルにセットされます。



Dirt and Gravel

未舗装路や砂利道

このモードは、土が露出した未舗装路や踏み固められてない小石の浮いた砂利道で、最適なコントロール性を得られるよう、出力特性とシフトプログラムが設定されます。比較的整備された未舗装路を日常的に、長い時間、ハイスピードで走行するケースも想定しており、エンジンの出力特性はドライビングモードの「Bentley」にセット。同乗者を含めて快適でスムーズな走りが楽しめるよう、ステアリング特性とサスペンションのダンパー特性は「COMFORT」に、スタビリティコントロールは「ON」に、車高は「オフロードレベル」にセットされます。



Mud and Trail

泥濘路や荒れた道

ぬかるんだ道、こう配や起伏の激しい極端な不整地に対応したモードです。不用意にシフトアップやシフトダウンを行ってトラクションが途切れることがないよう、例えば速度が低い時には低いギアを選択・維持するなど、状況に応じてできるだけギアポジションを保持するようシフトプログラムが調整されます。

また、5%を超える勾配を検知すると、前進、後退ともに速度を2～30km/hの間で維持する『ヒル ディセント コントロール』が自動的に作動。オフロードスタビリティコントロールモードや電動デフロック機能も働き、さらなるトラクションが得られるモードになっています。車高は自動的にオフロードレベルになります。



Sand

砂地

その名の通り、砂地で最適な性能を発揮できるよう設定されたモードです。砂地特有のトラクションのかかりにくい状況を克服し、スタックして身動きが取れなくなることがないよう、状況に応じて瞬時にタイヤにトルクを伝える専用のスロットルレスポンス特性とトランスミッションマップを採用。エンジン特性は基本的に「SPORT」と共通ですが、ギアシフトをより素早く行う『サンドトランスミッションマップ』が適用されます。

